

博士学位論文

(内容の要旨及び論文審査の結果の要旨)

	Tanaka Hikaru
氏名	田中 光
学位の種類	博士（経営情報科学）
学位記番号	博 甲 第 41 号
学位授与	令和 4 年 9 月 21 日
学位授与条件	学位規程第 3 条第 3 項該当
論文題目	体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムの提唱 Proposal of Talent Identification System for Improving The Value of Gymnastics
論文審査委員	(主査) 教授 藤井 勝紀 ¹ (審査委員) 教授 石井 成美 ¹ 教授 山田 裕昭 ¹

論文内容の要旨

体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムの提唱 (Proposal of Talent Identification System for Improving The Value of Gymnastics)

【研究の背景】

近年、オリンピックやプロスポーツの商業主義化は目まぐるしいものがあり、スポーツビジネスの市場は益々活性化して巨額の富を生み出している。様々な形式で行われるスポーツイベントの成功が世界各国の国力図式図にも相当し、優秀なスポーツ選手の人材育成は、今や国家にとっても重要な意義をもつ。このような背景の中、我が国においてもスポーツタレント発掘・育成事業 (Talent Identification and Development ; TID) の実施は、持続可能な強固なアスリートを育成し、日本のスポーツ界の繁栄、活性化、ビジネス、経済を支える一大事業となっているため、大変期待も大きい。

体操競技のタレント発掘においては、全日本レベルでの競技大会で成績を出した選手は、ナショナル強化やジュニアナショナル強化として合宿形式としての一定の強化プログラムは実施されているが、いまだに競技特性を活かした発掘アイデアによるタレント発掘プログラムや知見は見たことがなく、民間の体操クラブによる所属単位や個別単位での強化に依存しているのが現状である。

【研究の目的】

本研究は、歴史認識から体操競技の変遷や特性を把握し、「逆上がり」成就率から体操競技の教育的価値やタレント発掘視点を模索した。そして低身長の特徴を有する体操選手独自の身長発育におけるトラッキング状況を一般人の身長発育データから解析し、身長発育におけるランク帯の変動を検証することで、低身長のトラッキングという遺伝的要因による体操競技のタレント発掘視点への筋道を検証し、体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムを提唱することを研究目的とする。

【結果と考察】(研究課題)

歴史認識から体操競技の変遷や特性を把握し(検討課題 I)、「逆上がり」成就率から体操競技の教育的価値やタレント発掘視点を模索した(検討課題 II・III)。そして低身長の特徴を有する体操選手独自の身長発育におけるトラッキング状況を一般人の身長発育データから解析し、身長発育におけるランク帯の変動を検証することで、低身長のトラッキングという遺伝的要因による体操競技のタレント発掘視点への筋道を検証し(検討課題 IV)、体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムを提唱した(検討課題 V)。

¹ 愛知工業大学 経営学部 経営学科 (名古屋市)

検討課題Ⅰ（第4章）

体操競技の世界と日本の歴史からルーツを探った。日本ではヨーロッパとは異なり、教育に対する価値観も武士道精神の影響がある。このように、日本は教育体操から競技化した体操競技の独自の教育的生産性を有しており、その点を体操競技の歴史から紐解いた。

検討課題Ⅱ・Ⅲ（第5章・6章）

「逆上がり」について検証し、「持久懸垂」が「逆上がり」を習得するための大変有効な条件であることを示した。そして男女児の「逆上がり」成就率の速度曲線の挙動を比較すると、女児の速度のピークは年少時期ですでに検出されており、明らかに女児の方が成熟度は早い。その女児の「逆上がり」成就率曲線は「50m 走」の発達曲線と同様に神経型の発達パターンを示す。つまり、「逆上がり」はその能力評価は早い段階から可能であり、教育的な価値が高く体操競技のタレント性を判断するバロメーターと成りえると考えられた。

検討課題Ⅳ（第7章）

低身長の特徴を有する体操選手独自の身長発育におけるトラッキング状況を、一般人の身長発育データから解析した。身長発育におけるランク帯の変動を検証することで、低身長のトラッキングという遺伝的要因による体操競技のタレント発掘視点への筋道を検証した。そして、この知見により体操競技タレントの発掘には、幼少期から低身長で運動能力の優れた、且つ体操競技の特性を有した逸材を発掘する視点が提案された。

検討課題Ⅴ（第8章）

体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムを模索し、①幼少期の「持久懸垂」達成率②幼少期の「逆上がり」成就率③幼少期の「低身長」を体操競技選手のタレント発掘要件定義として示した。

日本は幼稚園や保育所、またが小学校において体操や器械運動、また鉄棒遊びや鉄棒を行っているため、現在行われている幼児期を含む幼少期の学校教育機関と連携してタレント発掘システムを構築していくのが最も効率的と考え、各都道府県の体操協会が市区町村、都道府県単位で、幼児期を含む幼少期の学校教育機関や教育委員会との連携による発掘要件を絞ったタレント発掘システムを提唱した。

【結論】

以上の検証から、本研究では以下のような結論を得ることができた。

- (1) 「逆上がり」はその能力評価は早い段階から可能であり、教育的な価値が高く体操競技のタレント性を判断するバロメーターと成りえると考えられ、体操競技タレントの発掘には、幼少期から低身長で運動能力の優れた、且つ体操競技の特性を有した逸材を発掘する視点が提案された。
- (2) それぞれの学校単位で行われている身体測定や体力測定に加えて、体操競技選手のタレント発掘要件定義とした①「持久懸垂」と②「逆上がり」を実施して成就率と達成率を確認する。そしてその中でさらに早熟で③「低身長」な群を抽出していけばターゲットを絞ったタレント発掘システムが構築できる。
- (3) これまでは暗黙知的に選手を選抜したり、発掘のための要件定義が設定されないまま発掘が行われてきたが、本研究結果を踏まえ、科学的に客観化された体操競技のタレント発掘システムが実現できれば、全国の幼稚園、保育所、小学校が対象となり、極めて広範囲の人材を網羅することができる。これまでは発掘できなかった埋もれた素材を科学的、且つ形式知的に発掘できるようになれば、教育機関が土台となって多くの人材を獲得でき、生産的な観点からもビジネス志向が働き、体操競技の認知的価値向上につながると思う。そこで、各都道府県の体操協会が市区町村や都道府県単位の学校教育機関や教育委員会と連携した発掘要件を絞ったタレント発掘システムを提唱したい。

論文審査の結果の要旨

体操競技のタレント発掘においては、全日本レベルでの競技大会で成績を出した選手は、ナショナル強化やジュニアナショナル強化として合宿形式としての一定の強化プログラムは実施されているが、いまだに競技特性を活かした発掘アイデアによるタレント発掘プログラムや知見は見たことがなく、民間の体操クラブによる所属単位や個別単位での強化に依存しているのが現状である。

本研究は、先ず、体操競技の成り立ちや歴史の変遷を把握することで、体操競技の教育的価値を検証した。そして、体操競技の特性から「逆上がり」成就率を解析し、そのタレント発掘の視点を考察した。さらに、低身長の特徴を有する体操選手独自の身長発育におけるトラッキング状況を一般人の身長発育データから解析し、身長発育におけるランク帯の変動を検証することで、低身長のトラッキングという遺伝的要因による体操競技のタレント発掘視点への筋道を検証し、体操競技の価値向上のためのタレント発掘システムを提唱することを研究目的とした。

検証の結果、以下の結論を得ることができた。

- (1) 「逆上がり」はその能力評価は早い段階から可能であり、教育的な価値が高く体操競技のタレント性を判断するバロメーターと成りえると考えられ、体操競技タレントの発掘には、幼少期から低身長で運動能力の優れた、且つ体操競技の特性を有した逸材を発掘する視点が提案された。
- (2) それぞれの学校単位で行われている身体測定や体力測定に加えて、体操競技選手のタレント発掘要件定義とした①「持久懸垂」と②「逆上がり」を実施して成就率と達成率を確認する。そしてその中でさらに早熟で③「低身長」な群を抽出していけばターゲットを絞ったタレント発掘システムが構築できる。

- (3) これまでは暗黙知的に選手を選抜したり、発掘のための要件定義が設定されないまま発掘が行われてきたが、本研究結果を踏まえ、科学的に客観化された体操競技のタレント発掘システムが実現できれば、全国の幼稚園、保育所、小学校が対象となり、極めて広範囲の人材を網羅することができる。これまでには発掘できなかった埋もれた素材を科学的、且つ形式知的に発掘できるようになれば、教育機関が土台となって多くの人材を獲得でき、生産的な観点からもビジネス志向が働き、体操競技の認知的価値向上につながると考える。そこで、各都道府県の体操協会が市区町村や都道府県単位の学校教育機関や教育委員会と連携した発掘要件を絞ったタレント発掘システムを提唱したい。